

# 市指定文化財に指定された 芦屋川の文化的景観

保護の視野を広げた国の文化的景観の保護制度は、平成十六年（二〇〇四）から始まり、四月一日、本市もその趣旨にしたがい、市独自で文化的景観を文化財に指定し、後世に少しでも芦屋らしい風景を残していく試みを出発させています。なお、文化的景観を市で指定したのは全国で初めてのことです。今号では今年市指定文化財に指定されたばかりの芦屋川の文化的景観を構成する身近な文化遺産の数々を紹介いたします。

## 芦屋川沿いの北部地域の文化的景観 六甲連山を背にした扇状地に展開した人々の遺産

芦屋川沿いの地域は、郊外住宅地として明治時代末頃から開発されたところですが、河口付近は松林が広がりますが、上流部にかけて桜並木など植物も豊かで、人間の営みを示す文化財も「石垣」「土蔵」にみられます。今回の指定は、周辺環境と一体となつて文化遺産を守り伝えることとする試みです。

現在、芦屋川の両岸は花ご石を用いた石垣によって守られています。



旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）

自然石を使用したところや加工石を用いたところなどがあり、流水路が二股がまえになっているところもありません。開森橋から日若橋間の右岸の護岸の石垣は、昭和時代初期、七十年ほど前に行われた改修のあとをよとどめています。芦屋川の固定的な流れは、護岸石垣によって守られているのです。しかし、古代や中世では、今とは比べられないほど川幅が六甲山地奥山の水車谷に存在する奥山浄水場は、昭和十三年（一九三八）に建設されたもので、鉄筋コンクリート造です。電力供給で、役はたした芦屋川発電所が阪急芦屋川駅の北およそ一キロメートルの所にあり、また、当時の発電能力は一〇〇キロワットでした。芦屋谷の水力を利用して一般家庭に電力の供給していた時代をしのべます。昭和三十三年（一九六二）に鉄管などがくさり、土砂で埋没し、発電は止められました。

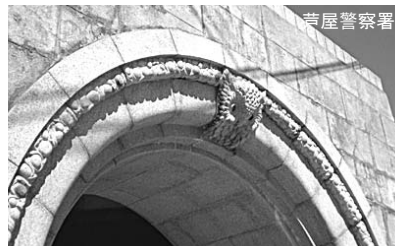
## 芦屋川沿いの中部地域の文化的景観 その近代的な街並みを眺めつつ

明治七年（一八七四）に大阪と神戸の間に官設鉄道（現在のJR）が通りました。芦屋川は典型的な天井川で、川床が高く、鉄道はトンネルを造つて川の下を走りました。トンネルの素材は煉瓦で、高度な西洋技術と日本人的な伝統技術がミックスされています。明治九年（一八七六）のイギリスのイラストレーター、ロンドン・ニュースには、優れた工内内容がさし絵入りで紹介されています。現在は、複々緑化の工事により水路橋に改築されています。

昭和初年の近代建築として知られる芦屋仏教会館は、川の西岸に目立つ建物です。前田町に所在します。所有者は、大正十三年（一九二四）発足の宗教法人崇徳会です。昭和二年（一九二七）の開館で、設計者は建築家片岡安です。鉄筋コンクリート造り地



芦屋仏教会館



芦屋警察署

上三階建ての建物で、壁は人造石貼りで、ハスのモチーフのステンドグラスが使われています。昭和二十四年（一九四九）に市立図書館が設置されたこともあります。

古典文学の匂いあふれる養牛橋は、芦屋川にかかる国道二号の橋です。最初に造られた大正六年（一九一七）の橋は木製でしたが、阪神国道現在の国道二号は、昭和二年（一九二七）に開通しました。

阪神電車近くに行きましよう。昭和建築として知られる芦屋警察署の古い庁舎時代の正面玄関が部分的に保存されています。昭和二年（一九二七）の建築物です。精道村五万円で寄付金七万円で建築された全国的にも異色な建物です。アーチ部分の石材には、警備の象徴ともいえる三ツツクが刻まれています。



芦屋公園

## 芦屋川沿いの南部地域の文化的景観 松林の織り成す閑静な住宅と公園

明治三十八年（一九〇五）に阪神電車が開通しました。ここには、芦屋川で最古の橋が駅の真下に現存しています。高さ三十三センチメートルの直方体花ご石を豊富に使っています。芦屋の郊外での住宅も都市化を物語る交通の整備事業の一つです。

芦屋公園は、明治時代に精道村が計画し、大正六年（一九一七）に海辺から阪神芦屋駅まで造られました。松浜遊園と呼びます。松の木が育ち、川砂の利用によって、両方の岸辺に平らな土地ができあがり、今も犬の散歩や子どもたちのよい遊び場になっています。

芦屋公園内に石碑があります。猿丸左衛門安明の功績などを刻んだもので、昭和五年（一九三〇）に建てられました。使われた文字は立憲政友会総裁であった犬養毅のもので、「芦屋の名門」と記され、村長や郵便局長、県会議員などに選ばれたことになっています。

大正六年（一九一七）に造られたぬえ塚と呼ばれる石碑があります。あくまで伝承ですが、ぬえとは源三位頼政が射て殺した怪物の頭は猿丸は狸、尾は蛇、手足は虎となつた化け物で、京都でこれを退治し、死骸を船に乗せて鴨川に流しました。打ちあげられた場所がこの芦屋川と住吉川の間あたりの浜辺という伝承があり、それを葬つた所といふことで、テニスコート近くの場所に記念碑が造られていました。

芦屋市は、六甲山をバックに緑豊かな眺望が広がる芦屋川流域一帯を、本年四月一日に、芦屋川の文化的景観として市の文化財に指定しました。文化財といえは、建造物や美術工芸品、考古資料などが一般的で、環境保全や文化財たよ、景観を指定するものは、兵庫県下の自治体として初めてのことです。

芦屋川沿いは歴史的な古い建築物や落ち着いた雰囲気、邸宅などが建ち並び、文化財も豊富にあります。また、カリ長石がピンク色をした特有の美しさをみせる六甲花ご石がふんだんに使われた両岸の風景は、芦屋の街を大変明るくさせてくれます。こうした文化的景観が織り成す景色に溶け込むように豊かな自然に恵まれ、動植物昆虫たちや魚の住み



芦屋川河畔

その功績をしのび、奥池を造つたことを示す石碑が開森橋東詰に存在します。この碑の建立は、大正五年（一九一六）のことです。

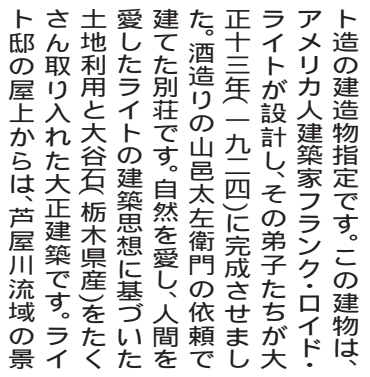
昭和十五年（一九四〇）に内務省が造つた水流ご石をせき止めるための堰堤（えんてい）が、山芦屋町の河原毛堰堤です。切石で造られています。江戸時代の後半から、明治・大正にかけて、芦屋川一帯は水車産業が栄え、また、菜種の油しほりや精米などに利用されました。開森橋上流の民家の石垣には、使われなくなった石臼がはめ込まれて盛んであった水車の活動のなりをとどめています。

昭和十四年（一九三九）起工の芦屋第一堰堤は、芦屋川の砂防、水防を目的とした第一の堰堤です。内務省による昭和十五年（一九四〇）の完成の銘石があります。

張り出す屋根の森の中を見上げる、古めかしい建物があります。国指定重要文化財として知られる旧山邑家住宅は、日本初の鉄筋コンクリート造の建造物指定です。この建物は、アメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトが設計し、その弟子たちが大正十三年（一九二四）に完成させました。酒造りの山邑太左衛門の依頼で建てられた狂荘です。自然を愛し、人間を愛したライトの建築思想に基づいた土地利用と大谷石、板木、漆をたくさん取り入れた大正建築です。ライト邸の屋上からは、芦屋川流域の景色が一望できます。

昭和十三年（一九三八）には、阪神間で大水害が発生し、芦屋川も洪水がおきました。谷崎潤一郎の小説、細雪にその光景が描かれています。当時は堤防を超え、土石流が一面をおおい、川の東側を中心に泥沼状態となりました。およそ八百戸が床上浸水もありました。開森橋の東岸には、この大災害を忘れたために、昭和六十二年（一九八八）に石碑が建立されました。芦屋川洪水の決壊を教える石碑です。

阪急芦屋川駅の北側にある桜橋は、大正時代に駅に向かうのに便利になりました。造られたものが、当時川岸にあった名木潮見桜にちなんで名づけられたものです。この橋もまた昭和十三年の阪神大水害で壊れ、当時のものは橋脚の土台部分のみが残っています。現在の桜橋は、昭和二十二年（一九四七）に架けかえられたものです。



水車臼を用いた石垣（山芦屋町）

# ハンセン病と人権侵害を考える

## ハンセン病とは

一本の映画を制作しました。もういっかい、ハンセン病と三つの法律、下キムンタリー（四三三分）です。明治大正昭和平成と百年にわたるハンセン病の歴史を描いています。社会から忘れられ、国策として「絶対隔離政策」の下で名前を変えさせられ、子孫断絶を強いられる。墮胎、園内労働による手足の障害、懲戒、検束規程による監房、重監房など、映画制作の過程においてわかってきたことは、驚くような人権侵害の連続でした。そこは本当に病気を治すための療養所だったのだろうか！国の犯した人権侵害を考えてみたいと思います。

## 無癩県運動

私がこの作品を作るにあたって、恐怖を抱いたのは、無癩県運動です。患者を隔離することによって、社会が救われる、という考えの下で、法律をつくり、富国強兵政策や軍国主義の台頭と極めて密接に関与しつつ、県や自治体、国民をまきこんでの政策が、無癩県運動でした。しかも、戦後においても人権蹂躪じょうりんの極みともいえる、無らこり運動が継続されて実施されたことには驚きを禁じえません。

一九三二年（昭和六年）国は、癩予防法を制定します。絶対終生隔離政策の始まりです。自宅療養者を含むすべての患者を療養所に収容する「絶対隔離」として、無癩県運動。当時府県の衛生事務を担当した警察組織が中心となり、患者の発見と療養所への送致を行いました。同時に、国は財団法人癩予防協会を設立し、金の運営資金は、貞明皇太后の賜金や寄附金などではない、貞明皇太后の誕生日の六月二十五日を、癩予防デーと定め、全国百八十八の会場

## 人権とは何でしょう

国策とは何でしょう。ハンセン病問題は決して過去の問題ではありません。一世紀におよぶ国の人権侵害は世界でも類がありません。国の政策が一つ間違えたら、国民を巻き込んでいきます。そして、被害者にも加害者にもなりかねないのです。語ってほしい。国策とは何でしょう。無らこり運動がそのことを如実に語っています。

# 人権週間 (12月4日~10日)特集

問い合わせ 人権推進担当 ☎38-2055

《筆者プロフィール》  
● 鶴久森 典妙（うくもり のりたえ）氏  
1948年神戸市生まれ。1984年からドキュメンタリー制作を行う。「奇妙な出来事アトピー」1991年（日本記録映画協会賞）、「風ものがたり 食環境と環境」1995年（地球環境映像祭教育映像賞）など。兵庫県映画センターに在職。

増幅していったのです。この病にか

かっただ人は本人はもとより家族や親戚にいたるまで近所づきあいや縁組を拒否されるなどの差別を受けたのです。

で講演会と映画会が催されました。ハンセン病は隔離の必要な病気であるという考えが講演を聴いた人々の間に次々に浸透していくようになり、新聞が患者の収容をおおるなか、一般市民もハンセン病の患者を見つけたら警察や役所に届け出ました。官民一体で無癩県運動を行ったのです。一九四五年度戦後迎えて民主主義を歩みはじめた日本国において、無癩県運動は続けられます。衛生行政は警察から保健所へと引き継がれ、一般市民の協力を得て患者狩りが行われました。こうした人権無視の政策を国は改めることなく、一九六六年まで続けられました。

宮井壽美子氏が  
人権擁護委員に再任  
人権擁護委員に、宮井壽美子氏（業平町在住）が再任され、法務大臣から委嘱されました。任期は、平成27年9月30日までです。  
問い合わせ 人権推進担当 ☎38-2055

12月前半	GATV 広報番組ガイド	放送時間(15分)
オープニング	岩園緑地	9:00
トピックス	芦屋巡礼の路-信仰のかたち-	12:00
	オータムフェスタ2012	15:00
特集	防犯は、1人ひとりの心がけから	18:00
	オープンガーデン2013 参加者募集	22:30
お知らせ	エンディング 「芦屋 橋ものがたり」より	※DVDの貸出可

■ 広報番組「あしやトライあぐる」は、11ch(一部地域を除く)でご覧ください。  
■ 番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■ GATV全般に関する問い合わせ ㈱ケーブルネット神戸芦屋(J-COM)カスタマーズセンター ☎0120-999-000

### 「大好き！！私の阪神地域再発見コンテスト」作品募集

「ぜひ訪れていただきたい」「ぜひ見ていただきたい」と思える阪神地域で撮影した写真とエピソードを公募します。受賞作品は、PR用パンフレットやポスターに活用、展示会の開催などを予定(平成25年3月展示予定)

■応募テーマ A 映画・演劇・ドラマ等の舞台・ロケ地/B 小説・漫画・アニメ等の舞台/C 伝説・歴史/D 自然・風景/E パワースポット/F その他(マニアックな場所・マイブームな場所など) 写真だけ、エピソードだけの応募不可 未発表自作品で2年以内に撮影されたものに限る ■表彰・賞品 金賞1人・商品券5万円/銀賞1人・商品券3万円/銅賞1人・商品券1万円/佳作50人・阪神地域の特産品2千円相当 ■申し込み 平成25年1月7日(月)消印有効までに、インターネットまたは郵送(プリントサイズは4つ切りまたはA4版)で下記へ  
【エイビイー関西支店内「大好き！！私の阪神地域再発見コンテスト」事務局】  
(☎06-6365-1675/☎06-6365-1342/☎http://www.hanshin-daisuki.com/〒530-0047 大阪市北区西天満5-10-17西天満パークビル2階 土・日・祝日・12月28日~1月4日を除く)

問い合わせ 阪神南泉島局産業振興・地域連携課 ☎06-6481-7669

### 公民館文学セミナー 2012年ノーベル文学賞作家 莫言氏の素顔に迫る

毛丹青『わが友、莫言を語る』

2012年のノーベル文学賞は中国の作家、莫言氏に授けられました。莫言氏と20年余の友人であり、2002年に日本のノーベル文学賞作家、大江健三郎氏を中国山東省高密県の莫言氏宅へ案内したり、谷崎潤一郎、川端康成のファンでもある莫言氏の日本訪問中も同行する機会も多い毛丹青氏が氏の文学や人物を語っていただきます。

■日時 1月19日(土)午後10時~11時30分 ■会場 市民センター401室 ■内容 ノーベル文学賞作家「莫言氏の素顔に迫る」 ■講師 神戸国際大学教授・毛丹青氏 ■受講料 400円 ■定員 先着120人 ■申し込み セミナー名・住所・氏名・電話番号を記入のうえ、はがきかファクスで下記へ

問い合わせ 公民館 ☎35-0700/☎31-4998(〒659-0068 業平町8-24)

### 谷崎潤一郎記念館の催し

【ロビーギャラリー】井上正三透明水彩への招待ギャラリートーク

■日時 12月9日(日)午後2時~3時30分  
■会場 講義室 ■内容 水彩画家・井上正三さんが水彩画の魅力や作品を解説 ■定員 先着30人(要予約) ■参加費 要観覧料

《開館時間》午前10時~午後5時(入館は4時30分まで)  
《12月の休館日》3日(月)・10日(月)・17日(月)・25日(火)・26日~27日は展示入れ替えのため臨時休館  
※28日~平成25年1月4日は年末年始休館

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852/☎38-3244

### 美術博物館の催し

学芸員による  
ギャラリートーク

■日時 12月15日(土)午後2時~ ■会場 展示室 ■内容 芦屋の仏教・神道の歴史について展示品を交えて解説を行います ■参加費 要観覧料

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432/☎38-5434